イベント報告

「中山間地域における持続的な地域づくり ～日野町リノベーションLabでの研究から創造する未来～」

令和６年12月17日に鳥取県日野町（以下、日野町）のリノベーションLab（旧黒坂小学校）において、中山間地域の持続的な地域づくりに向けた研究活動の成果報告会が開催されました。本報告会は、日野町を拠点として中山間地域が抱える人口減少や高齢化等の地域課題の解決に向けた研究活動を報告する場であり、日野町と当研究所を含む複数の組織間で締結された包括連携協定に基づくものです。当日は、現地とオンラインをあわせて約50名が参加する中、参画組織が今年度の活動内容について報告しました。

第一部では、日野町の地域住民が主体となって立ち上げた住民Labに関する活動報告がありました。全８団体からの発表の中には、地域の伝統行事の維持に向けた取組や地域特産品の開発、こども食堂の実践等の多様な活動が紹介されており、草の根活動が活発に展開されていることが示されました。

第二部では、町外からの参画組織における成果報告がありました。当研究所からは、令和６年７月に日野町のお祭りである「ねう祭り」で実施したアンケート調査の結果に基づき、同町に「つながり」のある人々の地元に対する意向評価（報告者：法理樹里主任研究官、関連記事２～３ページ）と、高齢者の日常生活におけるコミュニティの重要性（報告者：玉木志穂研究員）について報告しました。これらの研究成果から、持続的な地域づくりを目指す上で、住民の生活環境の向上や社会活動への参加を促していく取組だけでなく、日野町にゆかりのある人々との連携も強化していくことの重要性が示されました。当研究所では包括連携協定に基づき、今後も中山間地域の地域振興につながる研究を進めていくとともに、リノベーションLabでの研究成果を広く発信していきます。

（食料領域　研究員　丸山　優樹）

研究成果報告会の様子（筆者撮影）

学会賞受賞の紹介

農村計画学会　奨励賞

受賞タイトル：「都市と都市近郊地域における事業多角化と経営人材育成を通じた農業振興に関する研究」
受賞者：吉田真悟（農業・農村領域　研究員）

本賞は、都市と都市近郊農業の振興を目的として主に農業経営体の経営戦略とそれを支える経営人材に着目して実施されてきた一連の研究に対して授与されたものです。まず、都市・都市近郊における主要な経営戦略である事業多角化に関する研究では、市場出荷型の経営よりも直接販売や小売店向け販売に多角化した経営の方が農地保全に貢献していることを示しました。さらに、多角化した事業間で共通する経営管理機能や事業機能に関する研究では、生産・販売のプロセスが重複し、販売時期や規格、労働力に補完関係があることが明らかになりました。

こうした経営戦略を実現するためには有効なビジネスモデルの立案と実行を担う経営人材が重要であるという問題意識から、次に着目したのは、市場機会を適切に認識し多様な経営資源を動員してそうした機会を獲得するプロセスであるアントレプレナーシップです。東京都のマーケティング支援事業の役割に関する研究で、アントレプレナーが制度を有効活用するには「機会認識」と「動機付け」が不可欠であることが示され、また別の研究では、アントレプレナーとしての資質が高い農業者ほどマーケティングツールを導入していることも明らかになりました。最後に、近年、都市農地の貸借を実質的に可能とする制度が施行されましたが、その契約条件が潜在的な借り手となるアントレプレナーにとって非常に不利であることを示しました。

こうした内容を踏まえ、一連の研究は多くの新規性を有しているとともに、学術的にも社会的にも価値の高いものと評価され、2024（令和６）年４月20日に、農村計画学会より奨励賞が授与されました。